

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2023年1月31日

第25号

すくらんぶる

活動情報

- 12.15 高学年部会
- 12.22 理事会
- 1.12 乳幼児部会
- 1.13 劇場代表者会
- 2.2 理事会
- 2.4~ 舞台コーディネート事業
- 2.21 低学年部会
- 2.25~ 県高青交流会
- 2.28 祭典事務局会議
- 3.3 例会企画会議
／劇場代表者会
- 3.18 乳幼児部会
- 3.24 北島尚志講演会

日本の乳幼児に「ベイビーシアター」を！

世界で「ベイビードラマ」「アンダースリー」「スモールサイズ」などと呼ばれる乳児向け舞台芸術。日本でも20年程前から創作や研究とその上演の取り組みが行われています。児演協（日本児童・青少年演劇劇団協同組合）では2015年に「ベイビードラマ部」を設置、翌2016年にはプロジェクトとして正式に活動を行うために「ベイビーシアタープロジェクト」と名称を改め活動を行っています。また2022年には、すべての乳幼児がベイビーシアターを観ることができる社会の実現を目指して「(一社)日本ベイビーシアターネットワーク」も立ち上がり、ひろがりつつなかりを未来へ！との動きが起こっています。

長崎県でも届けたい 子ども劇場がコーディネートをし、ベイビーシアターの第一人者、表現教育研究所の大沢愛さんによる「かぜのうた」の公演が昨年11月に実施されました。コロナの影響で一部延期となり、残りの公演は6月に予定されています。実施された中から、島原市・寺田保育園の公演の様子を紹介します。

「かぜのうた」11月22日 寺田保育園 〈参加〉0オクラス(0~1才)親子16組

0オクラスだけの乳幼児公演は園にとっては初めての取り組みでした。そのため年齢を限定する理由を丁寧に説明し、事前の打ち合わせを細かく重ねて公演を迎えました。担任の先生が保護者の参加を積極的に呼びかけ、ほとんどが参加、どうしても来られない子どもには先生がつき、すべてペアで観ることができました。

保護者、先生方はいつもとは違う真っ暗な会場の様子に戸惑い、子どもが観れるのか心配しながらの参加でしたが、子どもたちにとっては、いつも居慣れた場所、周りは知ってる人、親が居るといって安心して観ることができた条件がそろいました。じっと観入る子の様子やいつもは感情を表に出さない子の豊かな表情に驚いたりしながらも、静かなゆったりとした時間になりました。園長先生は公演を観るまでは、小さい子どもたちだけで本当に大丈夫なのかという不安を拭いきれないようでしたが、観終わると「素晴らしい、素敵な世界でした。話されていたことすべてに納得しました。これからもこういう機会を持ちたい。」と話されました。

あらためて、乳幼児期にその年齢対象の作品に出会えることの素晴らしさを実感する時間になりました。



大沢 愛さんからのメッセージ



願えば叶う。人はいくつになってもチャレンジできるんだ。40歳の時「かぜのうた」を創り、しみじみと味わったことです。振り返ると、自分の仕事と子育ての歩みと共に、いつも傍らに在った“はじめてのおしばい”は、私にとって“あこがれ・ゆめ・しあわせ”が詰まった、とっておきの時間だったのでしょ。

人が生まれ育つ、そのはじまりの時期に、すぐそばにいる大人と信頼関係を結ぶこと。人が親になる、そのはじまりの時期に、能動的な子育ての在り様と出会うこと。ベイビーシアターの輪が広がることは、すべての人の幸せな人生のはじまりを、皆で祝福し合うこと。そんな地域社会を共に作っていかれたらと願います。

「かぜのうた」は、忙しない日常をふんわり包み込むような、忘れていた感情が甦るような、ちいさな人たちの息づかいが聞こえてくるような、ひとときです。

長崎の皆さんに、大事に育てていただいた作品を大切に届けたいと思います。

<西上寛樹さん来崎！「ガクモンの神様」(劇団仲間) 事前ワークショップ開催！>

2月の鑑賞例会「ガクモンの神様」は、今もっとも子どもの興味関心が高く、親は心配で頭を悩ませているSNSの問題に挑んだ作品。その例会を迎える前に、佐世保、諫早、ながさきの子ども劇場がその脚本・演出を手がけた西上寛樹さんとの事前ワークショップに取り組んだ。高学年の子どもたちにプロフェッショナルで魅力的な大人との出会いをつくりたい。それぞれの子ども劇場で、どんな出会いが取り組まれ、子どもたちはどんなことを感じたのか。2023年初のビッグな取り組みの様子を3劇場にそれぞれ報告してもらった。

佐世保子ども劇場

「ガクモンの神様」演出/脚本の西上寛樹さんをお招きして

2023年1月7日(土)14:00~16:00

会場：山澄地区コミュニティーセンター 参加：(高1)1名、大人7名



自己紹介の後は、西上さんの幼いころの思い出の話を聞いて、事前に用意したカードを使い、感じたことや思いついたワードをカードに記入した。最初に西上さんに指名された人が、その書いたワードについて話をする。そして、次の人を指名するというリレー形式で話を回していく。同じ方法で劇団仲間のメンバーと「ガクモンの神様」の脚本作りの素材集めをされたそうだ。西上さんは、少年がそのまま大人になったような方で、目がキラキラ輝いた魅力いっぱいの方だった。「なぜ『ガクモンの神様』ができたか？」それは「物語はいろんな不足やひずみの中で生まれた」と言われていた。また子どもの「不思議」に耳をかたむけながら佐世保ではどんなお芝居が生れるのか楽しみだ。

諫早子ども劇場

「えんぴつをちょっとだけ使う野外劇づくりワークショップ」

2023年1月8日(日)10:00~16:00

場所：横山頭山荘

参加：【小5】3名、【小6】1名、【中1】1名

【高2】1名、【青年】4名、大人スタッフ2名



集合から開始までの30分、火おこしや、のこぎりを使って木を切り、薪を割ったり、緊張をほぐすアイスブレイクの時間になったのがとてもよかった。西上さん(通称：がみさん)は穏やかで、講師というより共にあそぶ気さくなお兄さんという感じの方で、温かい雰囲気の中かで始まった。野山を散策して“ふしぎ”なモノを探し、それぞれ集めた“ふしぎ”を参加者みんなで共有する。そしてみんなでキーワードを選ぶ。多数決ではなく、なんとなくが大事。「なぜ大きな木は倒れたのか?」「土が緩んだから」「じゃあ根っこはどうなる?」がみさんとのやりとりから物語がつくられていく。大きな木になる人、根っこになる人が、表現を模索していく経過が実に面白い。恥ずかしさにも勝てない様子に、がみさんが「音楽を入れたらいいんだ。響くものが“恥ずかしい”に効く」「ポイントは響かせること」。がみさんがささっと竹を切って来て即興の楽器を作ってくれた。それをたたいて音を響かせ、身体を使って大きな木が土が緩んで倒れていく様子を表現する太古の劇。劇の初めは固かったみんなの表情が、少し緩んでいた。自然の中で、五感を使って表現することで、開放感や遊びを感じる体験は、学校ではできない学びだと実感した。

ながさき子ども劇場

2023年1月9日(祝)会場：長崎市立図書館・新興善メモリアルホール

① 13:00~15:00/(中1)1名、(高1)2名、(高2)1名、(青年)2名(参加6名)

② 15:15~16:45/大人(参加12名)

「ガクモンの神様」の題材でもある「YouTube」。子どもも手元にスマホを持つ時代、ネット依存や中毒を心配する親たち。それに加えコロナ禍で、対面で話したりコミュニケーションを取る活動も減り、子どもたちが日頃の生活の中でどんなことを感じたり考えたりしているのか、がまんしていたり不安だったりを抱えていないだろうか話し、今回西上さんには「子ども・青年」と「大人」それぞれに〈対話によるワークショップ〉



を実施していただいた。カードに書いていく形式で、一人一人自己紹介を兼ねて「好きなモノ・コト」「嫌いなモノ・コト」を聞くと、ほんとに人それぞれ。それなのに学校で一つの教科書で学ぶのは「ムジユン」? そんな問いかけをされたりしながら、人は元来多様で、ものの捉え方も人によって様々。非効率で「コピペできない」私たちの活動は、経済では負けるがしあわせ感では負けない。答えは出ないし出せないけれど、右往左往を共有しながら、子どもの「声」を聴きながら、というお話に共感し合い充実した時間になった。

子ども劇場は生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことを目指して活動しています。

このコーナーは、子ども劇場の特徴でもある舞台芸術や文化との出会いについて、様々な角度から県内各子ども劇場の会員の皆さんに書いていただいています。今回はながさき子ども劇場の鈴木郁子さんです。

♥ 私と子ども劇場の出会いは、今から25年前、長男が小学1年生の時でした。作品は『エルマーと16ぴきのりゅう』（人形劇団プーク）。大きな舞台に並んだ竜たちに、人形劇ってこんなにおもしろいものなのか!と感動しました。それから四半世紀、それほど舞台が好きでもない3人の男の子たちとたくさん作品を観てきました。

長男が大喜びしたのは『イエローマングループ』次の日の公演も観たい!というので翌日も観に行きました。以前は複数公演もあったんですね。真ん中の子は3人の中では一番舞台を楽しんでいました。この子がおもしろいと言ったのは、杷木で観た『ダイアルアゴースト』（劇団うりんこ）これは私もおもしろかった。この頃は春休みに杷木フェスに泊まりがけて行くのが一大イベントでした。『だるま食堂』も喜びました。コントを何度も真似していたのを覚えています。末っ子は始まって30分経つと「お母さん、もう終わる?」って5分おきに聞くような子でしたが、高校に入って久しぶりに観た『妥協点P』（劇団うりんこ）は気に入ってました。

こうして振り返ってみると月並みですが、子ども劇場が私たち親子に与えてくれたのは時間だったなと思います。いつもと違う時間を一緒に過ごす…贅沢と言ってもいいかもしれません。例会の日の慌たしさも、例会を観る楽しさも、帰りの車の中のおしゃべりも、終わってない宿題も懐かしい思い出です。そして今、私は1人の例会を満喫しています。

ちなみに私が感動した作品を挙げるとなると、う〜ん『ピノキオ』（人形劇団むすび座）ですかね。作品的には、その後で観た『チト』（人形劇団むすび座）の方が良かったのですが、『ピノキオ』を観た時の感動は大きかったです。『くず〜い屑屋でござい』（前進座）も良かった。時代物の良さが、しみじみ伝わる作品でした。『ルドルフとイツツパイアツテナ』（イツツフォーリーズ）も良かった。人間が猫の衣装で演じるのがおもしろかったです。人形劇団クラルテの『銀河鉄道の夜』も幻想的でキレイな作品でした。涙を流した作品は、『みててもいい?』（くわえ・ぱぺとステージ&人形芝居ひつじのカンパニー）と『わたしとわたし、ぼくとぼく』（劇団うりんこ）です。もちろん作品も良いのですが、涙が出るというのは、その日の体調とその時の状況、そして一番の理由は、わが子と一緒に観なかったからだと確信しています。

（ながさき子ども劇場／鈴木 郁子）

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名（団体名）	月日（曜）	開演時間	会場	主催
へんてこげきじょう (人形劇団京芸)	2月4日(土)	10:00	アルカスSASEBO 第2リハーサル室 (佐世保市)	佐世保子ども劇場
	2月11日(土祝)	15:00	メルカつきまちホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
	2月12日(日)	14:00	小栗ふれあい会館多目的ホール2 (諫早市)	諫早子ども劇場
ガクモンの神様 (劇団仲間)	2月17日(金)	18:00	山澄地区コミュニティセンター・講堂 (佐世保市)	佐世保子ども劇場
	2月18日(土)	18:30	長崎平和会館ホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
	2月19日(日)	18:30	諫早文化会館・中ホール (諫早市)	諫早子ども劇場
11ぴきのねこ (人形劇団クラルテ)	5月11日(木)	19:00	諫早文化会館・中ホール (諫早市)	諫早子ども劇場
こまのたけちゃんのおそぶあそび! (こまのたけちゃん)	5月13日(土)	15:00	メルカつきまちホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
	5月14日(日)	15:00	佐世保市民文化ホール (佐世保市)	佐世保子ども劇場

NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

★編集後記★

児童・青少年演劇ジャーナル「げき 25」に、「コロナ禍、子どもが失った二年間を取り戻そう!」という記事があった。小中高校でのコミュニケーション授業の実践、教員向けワークショップの開催、学童クラブや劇団の取り組みなど、全国でたくさんの実践があったことを知った。

その共通点は、笑いと楽しさ、まずあそびの中での関係づくり。そして1人ひとりを大切にする雰囲気の中で言葉や表現が引き出されていく。ゆっくりゆっくりと。

新年明けて県内3劇場で開催した西上寛樹さんのワークショップでも、自分のことを語ったり、自然の中で疑問をもったり創造したり、学校や勉強のことを考えてみたり。

高学年の子どもたちが西上さんという人に心を開いて、言葉や行動が引き出されている感じがした。

ちょうど、この「げき 25」の巻末に西上さん作の「ガクモンの神様」の脚本が掲載されていた。なんて面白そうな舞台なんだらうと思い、ご本人にお会いしたらますます公演が楽しみになった。そして、子どもたちに西上さんとお出会う機会をつくることが本当に嬉しい年の始めになった。(T)

祭典推進事業

「分かち合う文化の力で
子どもにやさしいまちづくりを！」

子どもにやさしいまちとは？
子どもにとっての豊かな文化環境とは？ あそび表現活動を通して人・まちをエンパワメントする達人、北さんと一緒に考えあいましょう！



表現活動クリエイター
北島 尚志 さん

2023年3月24日(金)

19:00~21:00

◆たらみ図書館・海のホール

◆参加費: 1,000 円

※YouTube アーカイブ視聴も同額



団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2002 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！
私たちは子どもの文化を応援します。

社会福祉法人 小野保育園

諫早市小野町 676-2
TEL0957-23-0120

ダイハツタチバナ

有限会社 林田車体工業

〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378



立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL0957-88-0292



古豊歯科医院

長崎市小峰町 3-16
☎ 095-843-4165



医療法人 マツオ内科クリニック

〒854-0072 諫早市永昌町43-6

TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220